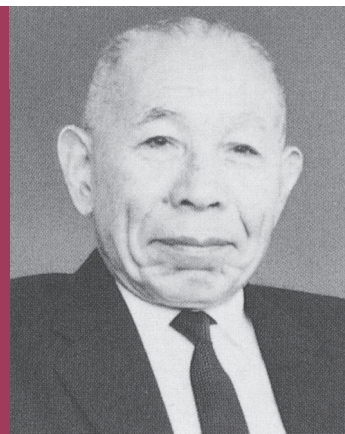


浅田 長平 小伝

Chohei Asada



浅田長平氏は、明治44年（1911年）京都帝国大学理工科採鉱冶金科卒業後直ちに株式会社神戸製鋼所に入社、大正15年製鉄部長、昭和4年取締役、同9年常務、同18年専務そして20年9月終戦と同時に社長に就任、21年12月公職追放により一時辞任したが、27年再び社長として復帰し、33年会長、40年相談役となった。昭和45年10月21日急性心不全のため逝去された。

この間59年の長期間にわたり、鉄鋼業の育成発展に力を尽くすとともに常に学界の指導発展に尽力された。

すなわち氏は、官営製鉄所である八幡製鉄所以外にわが国に製鉄業が成立し得るかどうかが危ぶまれた民間鉄鋼業の発展途上期に神戸製鋼所に入社し、同社の発展に献身し、これにより民間に近代的製鉄業を創設することに力を尽くされた。

終戦後壊滅状態にあった日本の産業を復興させる基盤となるものは、鉄鋼業の再建であることを洞察し、いち早く同社の平炉に火を入れ、関西地区鉄鋼業の立ち上がりを促進した。これは戦後における日本鉄鋼業の在り方を示す原動力となった。

さらに、日本の鉄鋼業が優れた製品によって世界の鉄鋼業をリードすることを早くから予見し、将来の需要に応じ得る生産体制を整えるべきことを唱え、今日のわが鉄鋼業の基礎を築いた。

昭和35年、氏は日本鉄鋼協会会長に選出された。当時本会は規模が小さく、わが国鉄鋼業の学術技術の進歩発達を図ろうとする本来の目的を達成するに十分な活動をなし得ない状況にあった。氏は会長就任とともに、学会基礎の確立こそ鉄鋼業発展の原動力をなすとの認識に立って、本会の規模を拡大し、活動を強化することを提唱し、関係各方面の賛同を得て、本会の画期的拡充強化を実現した。この基盤の確立によりその後本会は順調に発展し、今日では日本鉄鋼業を学術的面で支える学会として国際的に認められるようになった。また本会の発展は、学会基盤の確立、学会と業界の緊密な関係が、学会と業界が共に栄える道であることを示すものとして、わが国の学会全体にも示唆と希望とを与えている。

昭和46年、株式会社神戸製鋼所は、同氏記念のため金3,000万円（後に追加寄贈）を日本鉄鋼協会に寄贈されたので、本会は浅田長平資金取扱規程を設け、浅田賞の贈呈その他の事業を行うこととした。